

大空に翔る



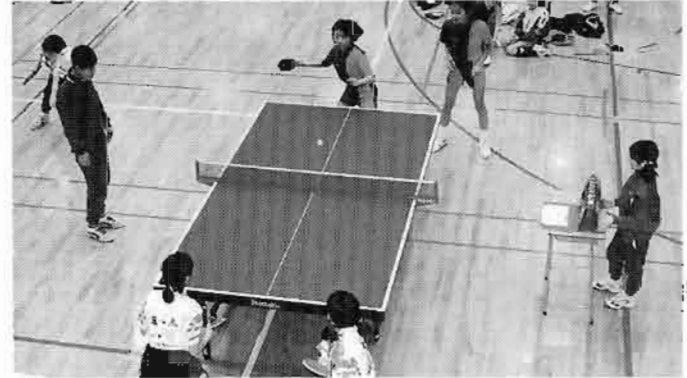
西置賜地区スポーツ少年団ウォークラリー交流会



第25回 酒田・鮎海スポーツ少年団大会 (酒田市飛島)



東根ピックグロー野球スポーツ少年団



鶴岡市卓球フェスティバル兼第43回鶴岡市少年少女卓球大会

今や、スポーツ少年団の活動は、地域に根ざした最も大きなスポーツの組織団体として、各方面から、多くの期待を寄せられております。永田先生の教え、そして、御人徳をお惚びし、山形県スポーツ少年団のより一層の充実、発展を目指して努力することを、ここに誓います。

あのやさしい笑顔で「どんな時代になっても、子供達の健全育成は、最も大切な事である。その理念を掲げ、実践しているスポーツ少年団活動は素晴らしい。これからも応援するから頑張ってくれ、期待しているよ」との励ましのお言葉をいただいたのが最後となりました。

永田先生と最後にお会いしたのは、昨年十一月、先生が、社会体育功労賞として文部大臣表彰を受けられた祝賀会の席上でした。奥様を側にして、あのやさしい笑顔で「どんな時代になっても、子供達の健全育成は、最も大切な事である。その理念を掲げ、実践しているスポーツ少年団活動は素晴らしい。これからも応援するから頑張ってくれ、期待しているよ」との励ましのお言葉をいただいたのが最後となりました。



本部長
原田 薫

永田亀昭前本部長を偲んで

本県スポーツ少年団の現状と課題

県スポーツ少年団活動実態調査

本部員 海老名 清二

平成十年度の重点事業の一つとして、単位団の活動状況等を把握し、今後のスポーツ少年団活動の

振興に関する基礎資料を得ることを目的に、県本部では初めて県内の全単位団を対象にアンケート調査を行った。アンケート調査対象は八月三十一日までの登録申請のあった単位団とした。

調査集計について、企画専門委員会を中心に分析を行った。その結果について、主な項目を取り上げその特徴的な事柄に触れながら私見を述べることにする。

☆回収状況について(参考図一) 七百九十団から回答があり、その回収率は七八・八%であった。回収率一〇〇%は、山辺町・中山町・大石田町・大蔵村・戸沢村・南陽市・高島町・長井市・白鷹町・余目町・藤島町・羽黒町・朝日村・柳引町・平田町の一五市町村本部であった。

☆単位団組織の運営について

団編成の地域は、小学校区範囲が六六・六%を占め、以下市町村区、居住区、中学校区、その他の順となっている。その他では、乗馬、ボクシング、体操等で隣接の市町村等の広域範囲で結成されている単位団もみられる。登録やスポーツ保険等の事務的な対応は、指導者・父母の係わりが大部分を占めているが、学校や公民館・地域組織の関係者などからの支援を受けていることが窺われる。

スポーツ少年団は地域のみならずで育てるといふ基本的な姿勢に立ち、指導者にのみ団運営の役割を頼るのではなく、今後とも、父母を含めた育成母集団員がそれぞれの役割を担っていくことが望ましいといえよう。

また、活動計画や電話等による連絡網の体制は九〇%以上の単位団で整備されているが、規約(団則)に関しては三〇・八%が未制定であった。団はメンバーシップによつて運営されることが原則であり、社会的な団体として認可される基本的な条件としても規約の整備は不可欠であると思われる。

☆活動目的について(参考図二)

三つ以内の複数回答で求めたところ、子供達の身体や心を育てる

八二・三%、スポーツ活動を楽しむ四八・五%、スポーツ好きな子供を育てる四一・三%が上位三位を占めている。概ねスポーツ少年団育成の基本理念を踏まえた活動を展開している姿を窺うことができる。

次に、大会参加と回答している団は全体では四〇・四%であるが、スポーツ種目別のクロス集計によると、空手道・バドミントン・野球・剣道・クロスカントリースキーでは五〇%以上であった。大会参加は日常のスポーツ活動の発展として、大いに意義のあることである

が、育成の基本的理念を踏まえた無理のない適切な対応が望まれるところである。

また、スポーツ選手の養成は全体では一一・一%であるが、クロスカントリースキー四〇%、バドミントン二七・八%、スキー二五%となっており、これらの種目では選手養成の志向が強くなっていることが窺われる。子供の心身の発育・発展の段階を捕らえ、将来を見据えた長期的な育成計画のもとでの適切な指導が望まれるといえよう。

☆団活動の内容について(参考図三)

体力テストや野外活動などの実施状況は低いといえよう。スポーツ活動を中心としながらも交流活

動や文化・学習活動などの多様な活動も取り入れつつ活動を展開することが望ましい。

また、他団との交流活動の実施は四七・一%であるが、一部を除き殆どは親善試合などであった。今後は地理的条件の異なる団の交流や都市と農村などの交流、姉妹都市の団との交流、そして日独スポーツ少年団同時交流などからの派生としての国際交流への展開も期待したいところである。

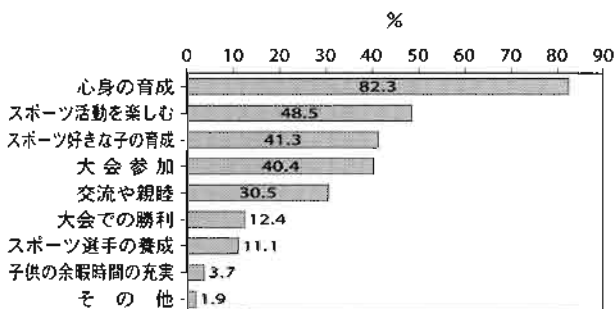
これらの交流には家庭泊を基盤に交流経費も少なく、より大きな成果が期待できよう。特に、人口の減少や高齢化が進行している本県にあつては、次代の地域振興の担い手でもある子ども達にスポーツ少年団活動を通して県外などとの交流を積極的に体験させ、県内の各地域に県外等からの交流人口の拡大に大きな影響を与え、その

として期待したいものである。一方、地域行事への係わりとして祭事等の伝承活動については二十団で実施しており、団活動に変化を与え、ともに地域社会と一体となった連携活動として特筆すべきことである。

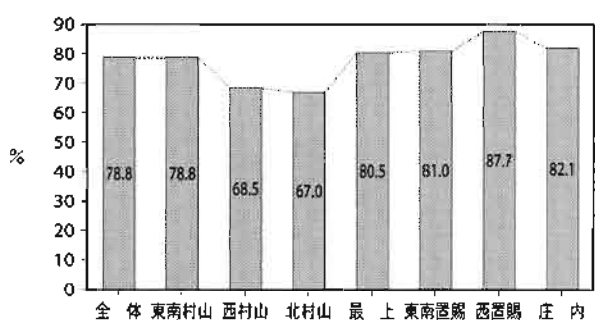
☆活動日数及び競技大会について

一週間の活動日数は一日〜三日までは全体の八四・二%を占めて

【図2】



【図1】



いる。子供達の心身の発育・発達などの面から、一週間の活動日数について日本スポーツ少年団では、二日程度を目安として活動することが望ましいとしていることと概ね合致している。しかし、四日以上は一・二・四%、その他の中には試合近くになると毎日と回答している団もある。

次に、大会参加の日数は、年間十日までは五五・四%、十一日以上四二・三%となっている団は剣道・複合・野球・スキー・卓球・バスケットボール・サッカーの種目に十二団見られた。活動日数や大会参加が特定の団員に過重にならないよう十分な配慮が望まれる。

☆指導者関係について

一団当たりの技術指導者は四・四人、運営指導者は一・四人となっている。その中で認定員等の有資格指導者率は五三・四%となっている。次に、単位団の指導者ミーティング等の開催は六八・五%、未開催は二六・七%となっている。未開催と回答した中には、少数の指導者の団においては随時活動の場面でコミュニケーションの機会が持たれている団が含まれているものと推測する。ミーティング等の機会を充実するとともに、常に指導者間の連携を保ち団員の技能の

発達や心身の変化などを的確に捕らえた指導を行うことが望まれる。

また、指導者への謝礼に関しては、三九〇団で行われていると回答している。その内六九・二%では年間、二万円未満の謝礼金や運動着等の物品である。指導者の方々にあつては謝礼の有無に係わらず、自分の時間を割き、時には活動に係わる費用を自ら負担しながら青少年育成に心血を注いでおられる姿を窺うことができる。正に、スポーツ少年団活動はボランティア精神に満ちた青少年育成とスポーツ振興に情熱を捧げる地域の多くの指導者などに支えられ展開されているということが出来る。

☆活動上の問題などについて

(参考 図四)

その他と回答した中の少子化等に伴う団員の減少も含め、団員の確保と回答した団は全体の約七〇%を占めている。小学校区や狭い地域範囲で組織化された団にあつては、これまでのエリアを超えた団編成も考慮しながら青少年のスポーツ活動を保証していくことが期待される。

指導者の確保について全体では四四・一%と回答しているが、クロスカントリースキー・バドミントン・サッカー・複合団にあつては

五〇%以上を占めている。中学生以上のリーダー団員の養成や育成母集団の機能の充実と併せて指導者の養成と確保が期待されるところである。

次に、指導方法について全体では一六・二%の団が挙げているが、種目別で二〇%を超えているところはバドミントンの三八・九%をはじめバレーボール、バスケットボールであった。

活動施設の確保について、二〇%以上の単位団で課題有りとしている種目は、スキーの四二・九%はじめバドミントン、空手道、野球であった。施設確保については苦勞の様子が窺われるが、季節毎の使用団体間での調整や時には合同で共通活動を行うことなどにより

競合を緩和する方法も考えられる。なお、スキーなど商業施設を使用しているところは、活動の安全確保や活動費用に係わる問題などを抱えており、広く関係機関からの理解と協力を期待したいところである。

また、育成母集団の役割と機能に係わる保護者・地域・学校の協力や支援面で三〇%以上あると回答した種目はクロスカントリースキー、野球、バドミントン、卓球であった。

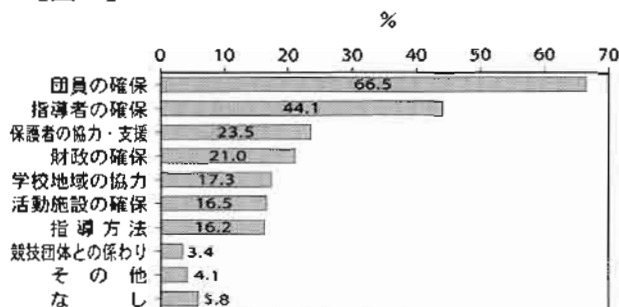
☆おわりに

今回の調査は、分析作業などに係わる人的・時間的な制約から、地域や種目別等からのクロスした十分な検討に至らなかったことをお詫びしたい。この調査結果は、県本部の課題として、今後の組織運営にできる限り反映させていきたいものと思っている。単位団や学区内、市町村などの各組織においても、それぞれの育成課題を把握し、一層充実した運営に取り組んで欲しいものである。

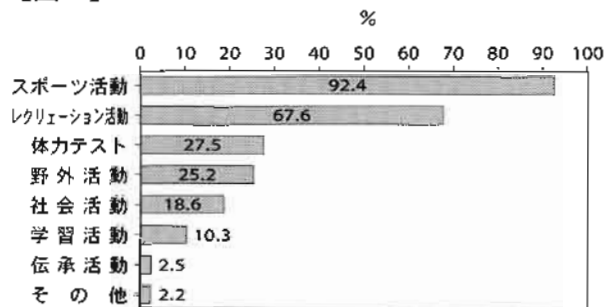
また、二〇〇二年度から実施される完全学校週五日制や青少年育成に係わる諸問題が山積している時期にあつて、家庭や地域が持つ教育的機能に対する期待は増大している。このような情勢の中にあつてスポーツ少年団は、地域社会の教育力を支える重要な役割を担っていることを再認識しなければならぬ。スポーツ少年団育成の基本的な指針である地域の子ども達は地域のみんなで育てていくということ。

おわりに、本調査にご協力いただきましたました単位団、市町村本部他の関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

【図 4】



【図 3】



友◆好◆

◆交◆流◆

一日独同時交流受入
南陽市 七月三十一〜八月六日

言葉の壁を超えて

高橋 翼

言葉が通じないと、心も通じないと思われがちだがそれは大きなまちがいだ。

僕はこの夏、ドイツ人を、ホームステイさせた。最初の顔合わせの時、うちの家は英語がわかる人があまりいないので、少し困ったが、身ぶり手ぶりで話していた。それでも思ったより、わかってくれた。中学生の僕は、父とドイツ人とのやりとりを聞いていておもしろいほど、英語の話が理解できた。時々、話がわからなくて困る時がありますが、そういうとき、日本人は、次の話題にうつす人がいるが、ドイツ人から見ると、ムツとするそうです。こういうときは、とことんわかるまで、話します。そうするとだんだんわかってくる、きくとわかります。そうなるにあつちも、うれしそうに笑い、こつちもうれしくなります。このうれしきは、とても気持ちいいうれしさです。

言葉は通じなくても、心は通じる。



このころから、こう考えるようになりました。

八月六日の原爆記念日に、ドイツ人のフーリアンといっしょに黙とうをした。このままずっと戦争が起きなければいいのにと祈った。

翌日、フーリアンがバスに乗っていつてしまった。ものすごく楽しかった。たのでものすごく悲しかった。たつた五日間でこんなにいろいろ学んだことは一生忘れないと思います。

いつか、ドイツにいつて言葉の壁だけだなく、世界の壁も超えていきたいです。

日独同時交流派遣団に参加して

伊藤 敦子

去年の夏、日独同時交流の派遣団員の一人として、長い間夢にみっていたドイツに行けることになりました。

た。日本から七時間も時差があり、住んでいる人々の人種、民族も違う所にホームステイすることは、私にとつてはとても貴重な体験でした。日本の夏は、とてもじめじめして、夜になっても暑くて眠れないのに、ドイツの夜は半そでではいられないほど寒く、十時になっても日は沈みません。だから夜は近くの祭りに行ったり、グリルパーティーをしたりと、とても楽しく過ごせました。昼間はプログラムに従って活動しましたが、私のホームステイしたエアランゲン地方は水泳スポーツクラブの人が多かったため、ほとんど水泳をしました。水泳といつても、ドイツのまわりには日本と違って海がないので、プールで遊んだりしましたが、水泳大会に出場して一・五キロ泳いだこともありました。ホームステイでは、言葉は英語でかわし、あいさつ程度ならばドイツ語で話しました。ホームステイ家族の人達は私にとつてもよくしてくれて、文化や言葉が違つても、やっぱり同じ人間だし、心が通じあうものと思います。

は、スポーツをしたり、お金のかわらない人生ゲームみたいなものを楽しみます。しかし日本人は、学校に部活があるし、暇な時はカラオケ、ボーリングなど、とてもお金のかかるようなことをします。だから私達もなるべくならドイツの若者のように経済的で、楽しく過ごせる遊び方を工夫して遊べるように心がけたいと思いました。

そして、ドイツに行き一番驚き、見習いたいことがありました。それは、ドイツ人がとても環境を大切にすることです。スーパーでは袋は自参、ピンは回収されます。色々な所に木や花があり、ゴミも落ちていません。日本ではあたり前のようにゴミが落ちていて、何でも使います。もう少し自分で注意すれば、何でも出来るはずだと思います。だからきちんと日本に帰つてからは、なるべくなら、ゴミを出さないように心がけるようになりました。

ドイツはとつても素晴らしい国だと思ひます。出来たらまたあと何年かしてお金をためてドイツの家族に会いたいと思ひます。

ドイツの若者と話してききました。ドイツの若者といつても、自分の生活、相手の生活をよくお互いできたと思ひます。ドイツの若者



日中青少年スポーツ交流指導者交流

十月十一日〜十四日(鶴岡市)



アジア近隣諸国青少年スポーツ交流指導者研修
十月二十五日〜二十七日(鶴岡市)



県スポーツ少年大会

山形市少年自然の家



平成十一年度は朝日少年自然の家にて(七月二十九日～三十一日)東北プロック大会と同時に開催されます。

ジュニアリーダーズスクール

朝日少年自然の家



平成十一年度は飯豊少年自然の家にて(八月十七日～十九日)開催されます。

流域交通促進

長井市スポーツ少年団

事務局 伊藤 由利

西置賜地区スポーツ少年団が一堂に会し、スポーツ活動を通して団員相互の親睦を深め友愛の心を育てることを目的に、地域交流促進事業「ウォークラリー交流大会」を八月一日長井市で開催しました。

当日は、朝からグングン気温が上がリ暑い一日でした。丁度「水祭り」も開催された日で、水祭り会場となった最上川河川敷では早朝よりヘリコプターの発着や魚釣り大会、舟遊び等で大変にぎわっていました。水祭りも楽しんで頂きたいと思つて同日に企画したウォークラリー大会には、飯豊町、白鷹町、長井市の指導者、母集団の大人一人に団員五名の二十四チーム百三十六名の参加がありました。長井小学校の会場に集合したほとんどのチームは、ウォークラリー初体験者で迷わずゴール出来るか心配な面もあつたのですが、レクリエーション協会の説明後、コース図を頼りに出発しました。ウォークラリーとは、コース図に従つてグループで歩いて歩き「課題」を解きながらゴールまで進み時間得点



と課題得点の合計を競う野外ゲームです。コマ間違ふところかへ行つてしまうので、地図の見間違いはないか、交通量の多い交差点で危険はないか、チェックポイントは通過しているか、暑い中で体調の悪い子はいないか、水祭り会場で時間をとりすぎていないか等を役員が分担して見回つていたのは言うまでもありません。出発して二時間後大汗をかきながら全チーム無事ゴールし、安心したところです。日頃通ることのない細い道での新しい発見や、水祭り会場で風船をもらつたり、チーム全員で知恵を出し合いクイズを解いたり、初めてグランドゴルフに挑戦したりと、日頃のスポーツ少年団活動から離れて団員間の交流を深めて頂けたのではと思つています。一位から十位まで順位を決め賞状と賞品を授与し全員に参加賞をあげ交流促進事業を終了しました。

市町村の動き 目四町

三川町スポーツ少年団は、現在十二団、八種目(団員二百八名、指導員六十九名)で指導者協議会と育成会が互いに連携を取りながら積極的に団活動を推進しており学校、父母、地域が一体となつて子供の健全育成に努めて大きな成果を残しております。

主な年間活動としては、各単位団の活動のほか、町本部主催で毎年十一月に町スポーツ少年団交流大会があります。普段はなかなか顔を合わせる事のできない他団員とドッチボールを通して交流を深めています。

体力テストについては、各単位団ごとに年一回行つております。その結果を利用しながら指導に役立てています。団によっては保護者も一緒に行つて団員と楽しい時間を過ごしております。



一方、指導者協議会では、スポーツ少年団指導者研修会を年一回行つており多数の指導者が参加しています。今年度は「スポーツ傷害と予防」の講義を受けながら「テーピング」を学んでいます。その機会を利用しながら各団の状況報告と情報交換を行い指導についての意見の交換がなされています。また、広く町民にスポーツ少年団を理解してもらえようように広報を発行しながら単位団の紹介を行つております。

三川町スポーツ少年団の今後の課題としましては、指導者の確保、少子化により団員の減少によるスポーツ少年団の再編への対応、そして現在後援会、育成会となつている組織の改編等多数あります。その課題を一つ一つクリアしながら子供たちの健全育成、スポーツの楽しさを十分味わえるような少年団を目指して活動ができるように頑張つていきたいと思つています。

やさしく教えてくれたので今の私があると思います。そして、初めての大会の時は、きん張で泣き出しそうになりました。そんな時先輩達がやさしく話しかけてくれました。私は、「私も六年生になったら、こんな先輩になりたいと思いました。その大会では、先輩のやさしい気づかいのおかげで納得のいく成績を残すことができました。」

六年生になるとキャプテンという大変な任務を任せられました。初めはとても不安でしたが、みんなも私に協力してくれとても助かりました。だから、みんなをうまくまとめることができました。中学生になっても、スキーを続けていきたいです。そして、自分の納得のいく結果が残せるようにがんばります。



カー 力哉
サッカー少年団
赤湯スポーツ

【南陽市】
松木 力哉

ぼくは、三年生から赤湯レッドライオンズスポ少に入り、四年間一生けん命がんばってきました。入団したばかりの時は思うようにドリブルやリフティングが出来なく先輩達のように、いつかかならず上

手になるぞと心の中でつぶやきました。サッカーは雨が降っても練習はあります。服がよければ、四年間がんばって、初めての試合で、ぼくはゴールキーパーをしました。それから三年間このポジションでチームとがんばってきました。ぼくは、ゴールキーパーをしていて、「絶対川口見たいなキーパーになつてやる。」



小国 友浩
野球少年団
スポーツ少年団

【小国町】
舟山 友浩

と思いつづけて、この四年間一生懸命がんばって来ました。六年生になって、キャプテンという重い任務を引きうけてしまいました。ぼくは、不安と期待でいっぱいでした。六年のフットサルの県大会では県二位という結果を残すことが出来ました。ぼくは、いままでになかった喜びとうれしさでいっぱいでした。この喜びを忘れないように中学校にいつても一生けん命サッカーでがんばっていきたい。

でも、ぼくは、お兄ちゃんほどうまくありません。自分なりに努力してきましたが、守備では「腰が高い、もつと低くかまえる」などと、監督やコーチに同じことを注意されています。それでも、頑張つて練習を続け六年生になってからはファーストで試合に出れるようになりました。試合でうれしかったのは、二本のランニングホームランを打ったことです。その中の一本は最後の試合で、東北大会まで行ったピッチャーから打てたので、一生忘れることのできないぼくの大切な思い出です。

でも、試合で一番くやしかったのは、県大会の出場をかけた決勝戦で「エルザ」に負けてしまったことで、涙がこぼれてしまうほどでした。スポ少では、野球だけでなく、スキー合宿があったり、餅つきがあったり、親子試合があったり、いろいろな事をやる事ができうれしかったです。

中学生になつても、絶対野球を続けたいです。そして、スポ少でいくことができなかった県大会に出場することが、ぼくの夢なんです。監督そしてコーチ、いろいろありますが、ありがとうございました。これからも、がんばります。



朝日村 スキー
スポーツ少年団

【朝日村】
渡部 達

ぼくは、小学三年生からスキースポ少に入りました。今、この四年間をふり返ると、いろいろなことがありました。

ぼくが、バスケットボールをはじめたのは四年生の時です。あれから三年間たちました。バスケットボールをはじめたきっかけは、テレビを見てとても楽しそうだったので、五年生の新人戦ではぼくがキャプテンでチームをまとめて、最初の一步をふみました。六年生になると、練習もきつくなり、ミスがめだつてきました。そのミスをなおすためにいっしょうけんめいチームメイトで練習し、はげましました。がんばって来ました。



バスケットボール
スポーツ少年団

【酒田市】
須田 尚由

中学生になつても、絶対野球を続けたいです。そして、スポ少でいくことができなかった県大会に出場することが、ぼくの夢なんです。監督そしてコーチ、いろいろありますが、ありがとうございました。これからも、がんばります。

ぼく達のスポ少には、すばらしい先ばい達がいいます。団員はその先ばいを目標に練習しています。しかし、最近は何員が減っています。こんなに雪が多く、スキー場が近いのに残念です。

スタート前の緊張感とゴールした時の満足感やくやしき思い等は、きつといい思い出になり役に立つと思うので、仲間を増やしてもっと頑張つてコーチに恩返ししたいと思います。

団紹介

金山町

●明安スキースポーツ少年団●

代表指導者 阿部 明法

本団は、明安小学校の三年生から六年生までを対象とし、昭和四十六年三月に結成されました。

活動の中心は、その名の通り冬季のクロスカントリースキーで県大会でも数多く入賞しています。

また、夏場も体力作りを兼ね、男子は野球・ソフト。女子はミニバスケをがんばっています。

現在、団員数は六十一名。指導者数二十五名を数え、母集団の協



山辺町

●山辺ソフトテニススポーツ少年団●

代表指導者 長岡 均

力も積極的で、本団主催の交流森林マラソン大会も九回目となり他団体との交流も活発です。

日々子ども達の心身両面での成長を願う指導にあたっています。



山辺ソフトテニススポーツ少年

団は、団員三十五名、指導者三人で、育成母集団の方々のお手伝いを受けながら、週に二回活動しています。

山形県の小学生のソフトテニスのレベルは全国的にも高く、週二回の活動では、県内の強豪に立ち向かうには厳しいところがあります。

中学生以上のリーダーはこれまでどこにもいませんので、小学校を卒業するまでの間に、テニスが面白いと言ってくれることを目

尾花沢市

●尾花沢フットボールクラブ

スポーツ少年団●

代表指導者 高橋 隆

指して指導しています。小さな進歩を見逃さないで、団員のやる気を引き出したいと思っています。

尾花沢小学校を中心にした小学生と、尾花沢市大石田町の中学生とを対象にした小中学生合同の少年団として活動しています。

尾花沢はサッカー人口というのがほとんどなく、結成してまだ五年目の少年団です。中学校ではまだまだサッカー部を結成できる環境が整わないため、設立当初の団員は中学二年生になりましたが、サッカーをする場所を求め、学校の部活動と両立させ最大限の努力をして可能な限り練習に参加しています。

そんなサッカー好きな先輩の後ろ姿を見て育った小学生も、もちろんサッカー大好き少年です。その姿を見ている親も、だんだんサッカーが好きになっていくようです。

四月から十一月までは練習試合と公式試合で大変忙しい週末ですが、試合ごとに上達していく自分に子どもたちは満足し、親たちは

子どもの可能性のすばらしさに驚きを覚えます。子どもに教えるとか、子どもを育成するとか考えず、子どもから大人まで「サッカー好きな人たちがたくさんできたらいいな」と思っています。



高島町

●屋代地区スポーツ少年団●

団長 小松 政一

高島町屋代地区内の小学校四年生から六年生を対象に、昭和五十九年に結成され、本年度十五周年を迎えました。現在一〇〇名の団員と三十七名の指導者で、野球・バレー・卓球・ホッケーの四コースで練習に励んでいます。

コース毎に、週一〜二回の練習を行い、各種大会に参加しています。全体行事として、年度始めに

結団式と年度末にお別れ会を開催し、団の結束をはかっています。また、地区敬老会の参加や町の夏祭りバレード参加のために、団員指導者、父母一体となり練習、準備にとり組み参加しています。

当団の指導員は、ほとんどが地域の人や父母の方々に、地域の子どもは、地域の親が育て、父母の方々も「あなたまかせ」でなく、スポーツを通して、共に汗を流し、スポーツの楽しさと仲間作りが親子でできる少年団を目標に団一丸となって努力して行きたいと思っています。

- 一、いつも明るく元気にあいさつをします。
- 一、行動はすばやくみんなの用具は大切にします。
- 一、上級生は下級生のよい手本となり下級生は上級生を見習います。

「屋代地区スポーツ少年団」
三つの約束



寒河江市

●寒南ミニバスケットボール

スポーツ少年団

代表指導者 塩野 良助

寒南ミニバスケットボールスポーツ少年団は、寒河江市立南部小学校の児童を対象に昭和五十九年四月に発足し、今年度で十五周年を迎えました。

現在の団員は、男子十九名、女子十六名です。練習は週四回ですがみんな上の大会を目指し、がんばって練習に励んでいます。

ミニバスケットボールの練習の他にもサイクリング、芋煮会、焼肉パーティ等いろいろな行事も取り入れています。

指導者といましては、中学校、高等学校に進んでも楽しくバスケットボールができる子供に育ってほしいと願っています。



鶴岡市

●陽光スポーツ少年団

代表指導者 松田 健志

昭和五十一年、鶴岡市立朝陽第一小学校に「陽光スポーツ少年団」として設立、以来今年で満二十三年を迎えることができました。発足当時は、野球・バスケットボールの二団体でしたが、現在では、バレーボール・卓球・剣道・サッカーを加え六団体となり、着実に発展してまいりました。

今年度の団員数は総勢百四十七名、団員全員が日々の練習を通して健全な心身を養い、団員同士スポーツをする喜びを分かち合っています。

今後、地域に根差した活動を展開していきたいと考えています。



鶴岡市

●大泉剣道スポーツ少年団

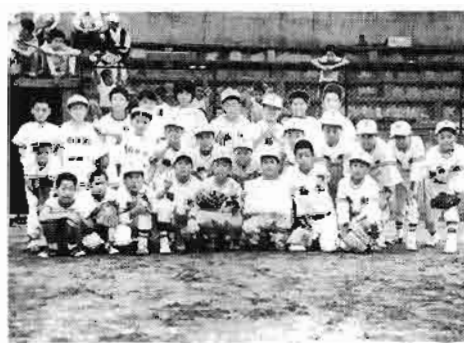
代表指導者 本間 寿昭

大泉剣道の歴史は古く、又伝統ある武道として、青少年健全育成の目的で昭和五十年七月に発足以来二十数年の年月が過ぎました。

さて、当スポ少の年間行事としては、発足以来続いている夏の合宿、十回前後ある各種大会に出場しています。練習日は月木の週二回の稽古に励んでおります。

又昨年は念願の全国選抜水戸錬成大会に初出場し、全国の剣士と剣を交えてきました。

最近団員の減少が少々悩みの種となっております。これからも指導者として「心」を忘れないで育成に携わっていききたいと思えます。



山形市

●山形テニスクラブスポーツ少年団

代表指導者 関 達郎



「スポーツ少年団」とは何か。そんな事すら全く知らない、そんな私がスポ少を引き受けること自体夢にも思っていなかった。昭和六十二年の秋のこと。三十八歳にして始めてラケットを持ちソフトテニスの楽しさがようやく判つて来た頃でした。そして十三年、指導の難しき、子供たちと親、コーチとの間にあり苦悩の連続、しかし子供たちに教えられることばかりで指導者としてなにを為すべきかソフトテニスの楽しさを教える以外に有りません。お陰様で今年で十年連続の全国大会出場を果たし、現在実力三十二本ですが、日本一の子供にするのが目標です。

白鷹町

●蚕桑剣道スポーツ少年団

代表指導者 小谷部 仁

蚕桑小学校校内の有志が蚕桑剣道を創設、地域に支え育くまれ生々発展、白鷹町スポーツ少年団結成と同時に登録、以来各種大会において数限りない足跡を残して来た所である。団活動は週二回(毎週水曜日、土曜日ただし第二、四土曜は休み)と決して多い練習量ではないが年間プログラムには春夏秋冬、各一行事を組み実施しており秋実施の恒例の宿泊研修は好評で上級生がリーダーシップをとり下級生を良くリードしている。





完全学校週五日制実施を前に

山形県スポーツ少年団副部長

安部 新一

一、学校週五日制の趣旨と導入の背景

日本の学校教育は、欧米諸国の多くが週五日制を実施している中で、明治以降一貫して学校週五日制を貫き、大きな成果をあげてきました。中でも戦後の教育は、教育の機会均等を柱に教職員や教育行政に携わる人など多くの教育関係者の努力により、質量ともに著しい発展を遂げ、国際的にも極めて高い教育水準に達しました。

しかしながら、子どもたちを取り巻く環境が急激に変化する中で、知識偏重の学力観や学歴偏重社会に対応させるために子どもたちを苛酷な受験競争に駆り立て、過密なスケジュールのもとにゆとりのない生活を強いる結果をまねいてきた現実もまた否定することはできません。その結果、目標と自信を失った子どもたちの中には、いじめや暴力または不登校など現実からの逃避によって自己を表現し、また、社会的規範の欠如による青少年の非行の増加、家庭や地域の教育力の低下など教育の現状に極めて深刻な問題をなげかけています。

従来、日本の学校教育は、諸外国の学校教育に比べ多大な教育機能を

を期待され、それを果たしてきた経緯がありますが現代の社会構造が年々複雑になってきている状況の中で、本来、子どもの人間形成の基

本である家庭での生活体験や地域における子どもたちの自発的な活動を通じて養われる能力や態度の

全てを学校教育の中で身につけさせることは極めて困難であるといわなければなりません。こうした状況の中でこれまでの学校教育への

過度の依存度を緩和し、家庭や地域社会における子どもたちの生活時間の比重を高めることにより、種々の遊びや体験的な活動を通じて思考力や創造力や豊かな感性を育み、社会の変化に対応して自ら考え、主体的に判断して行動できる資質や能力を養うことが必要になってきました。

このような状況を踏まえ、平成八年七月に中央教育審議会が「二十一世紀を展望したわが国の教育の在り方について」第一次答申をまとめ、今後の教育の在り方の基本的な方向として子どもたちの個性を

尊重し、ゆとりの中で自ら学び、考える力や豊かな人間性などの「生きる力」を育むことが今もつとも重要な課題であるとの認識にたち、

学校の教育内容の厳選を図り、また家庭や地域社会の教育力の充実を図って学校、家庭、地域社会の連携を進めることを目的に完全学校週五日制を実施するよう提言しました。

2、学校週五日制とスポーツ少年団

子どもの全人的な成長にとって、家庭をはじめ地域や学校の教育力がそれぞれに発揮されることが不可欠であります。学校教育への過度の依存により三者の役割と責任の分担が曖昧になっている今日、学校外活動の基盤となる家庭や地域の教育力を活性化させるためにそれぞれ立場から改善に向かって努力することが必要であります。

(一) 家庭の教育機能の発揮

子どもの人間形成や身に最も大きな影響を及ぼし、その最終的な責任を有するのは家庭であります。現代の家庭の多くは、兄弟姉妹間の切磋琢磨、家事の手伝いや家族が一緒に過ごす時間、さらに子どもたちが社会的な規範を身につけるのに必要な様々な生活体験などが、一般的に不足しています。それ

に、子育てに關しての父親の存在も希薄になっているとの指摘もあります。もう一度家庭の在り方を問い直すことにより、一家団らんの話をも大切にし、思いやりのある明るい円満な家庭を築くなど、また子どもに家事を担わせて責任感や自立心を育てるなど、身のまわりの小さなことから改善していくことが大切であります。

(二) 地域の教育力の充実

子どもたちにとって、身近な活動の場は地域であり、異年齢集団の活動や遊びの中で自分の立場を認識する場でもあります。そのために、教育委員会をはじめ子どもたちを取り巻く関係団体等が中心となつて、地域の環境を整備していくことが必要であります。また、青少年団

体、スポーツ関係諸団体の指導者、社会教育関係者など中核となる指導者の充実と資質の向上に努めることが大切であります。スポーツは、異年齢集団が共通のルールのもとに活動を行い、体力の向上のほか、忍耐力、公正さ、規律、協調性を身につけるなど発育成長期の子どもの重要な意義をもつことはいまでもありません。

スポーツ少年団はこの時期にある子どもたちの生活に直接関わりをもつ団体であり、極めて重要な役割の一端を担っています。いま、大人の社会においても週休二日制が進展してきており、土曜・日曜を休業とする企業も増加していますが、完全学校週五日制が実施された場合、保護者或いは指導者として子どもたちを受入れる体制について十分検討し、予め準備しておく必要があります。一方、子どもたちについても、その趣旨についてよく理解させ、少なくとも目的意識がな

く自由時間をもてあますような状態にならないように指導しておく必要があります。その上で、土曜日の年間総日数五十二日と合わせて日曜などの休日について、学校週五日制導入の趣旨を逸脱しないように配慮して有効活用を図るべきであります。その際、学校との連絡を密にしながら保護者、指導者、その他の関係者が「主役はいつも子どもたち」を念頭に入れて年間活動計画を立て活動日数や時間、大会参加等の体制を決定することが大切であります。活動の内容についても、スポーツ活動のほか地域の文化活動や奉仕活動など、幅広い分野にわたることが人に感謝する心や思いやりの心を育み、子どもたちを心身ともに大きく逞しく成長させることになると思います。

県の動き

表彰

日本スポーツ少年団表彰受賞者(団)

◆表彰市町村スポーツ少年団

上山市

◆表彰指導者

鎌田剛(山形市)・鈴木正己(朝日町)・板垣規雄(大石田町)・二戸建夫(最上町)

◆山形県スポーツ少年団表彰受賞者(団)

◆功労者

有海長一(山形市)・阿部善宏(山形市)・黒坂好春(西川町)・植松久三郎(東根市)・斎藤衛(川西町)・沼沢忠義(舟形町)・佐竹陽一(長井市)・山中俊(松山町)・加藤弘良(酒田市)・鈴木克志(鶴岡市)

◆優良団

西山形とかみスポーツ少年団(山形市)・寒河江剣道スポーツ少年団(寒河江市)・玉野スキースポーツ少年団(尾花沢市)・村山柔道スポーツ少年団(村山市)・小松パレーポールスポーツ少年団(川西町)・明安スキースポーツ少年団(釜山町)・蚕桑剣道スポーツ少年団(白鷹町)・長井サッカースポーツ少年団(長井市)・泉野球スポーツ少年団(酒田市)・大山剣道スポーツ少年団(鶴岡市)

各級スポーツ少年団資格取得者

◆少年スポーツ上級指導員

井上道雄(長井市)・遠藤啓一(寒河江市)

◆認定育成員

今野隆・梅津孝夫・上野和義(以上鶴岡市)・齋藤慎二(舟形町)・島貫正弘・笹木庄伍(以上上川町)・玉虫由紀子(米沢市)・土門邦廣(酒田市)・北山武徳(藤島町)・石山寛(尾花沢市)・細矢清隆(村山市)

◆認定員

十年度四三四名受講修了、内一八八名認定、二四六名が十年度未登録のため保留

録のため保留

(★認定員資格は十一年度未登録の場合、資格が消失しますのでご注意ください。)

《シニア・リーダースクール》

前期 秋田県 後期 静岡県
鶴岡市 五十嵐咲希・村田里枝子・志田望智博(以上鶴岡市)・寒河江円(羽黒町)・佐竹美麻子(白鷹町)・深澤静香(長井市)・小関寿枝・阪野真希子・寒河江和之(以上上川町)

《シニア・リーダースクール》

朝日少年自然の家にて、四十七名をシニア・リーダーに認定

《全国スポーツ少年大会》福岡県

指導者・安達正一(寒河江市)・団員・寒河江和之・細谷章寛・佐藤真人・猪狩千洋・那須和幸・嶋貫まみ・高橋拓巳(以上上川町)・柴崎達郎・高橋賢治(以上尾花沢市)・原田敢・梅津崇・加藤智佳子・奥山里美・佐竹彰・新納大輔(以上白鷹町)

《東北ブロックスポーツ少年大会》

岩手県 指導者・芳賀繁男(白鷹町)・団員・佐藤雄拓・三浦敬祐・富樫勇介・佐藤智泰・佐藤弘幸・五十嵐咲希(以上鶴岡市)・菅野洋史・三浦涉(以上尾花沢市)・池田晴海(川西町)・三瓶仁寛(真室川町)・長谷川大裕・原田大・高橋敬・梅津優一・嶋林聡美・芳賀透(以上白鷹町)・菊地直隆・別府拓生・井上こずえ・鈴木智恵(以上長井市)

《全国S・H・I・P・S交流大会》東京都

指導者・土門満・団員・小松瑛美・菅原竜・高橋紅実子・長南勇大・鈴木麻美・須田尚由(以上酒田市)

山形県より十五名参加

十一年度は六月開催です。

平成10年度 山形県スポーツ少年団登録状況

平成11年1月31日現在

単位団体(団)	単位団体(団)			団員(人)			指導者						
	変更	新規	計	男	女	計	男			女			計
							変更	新規	計	変更	新規	計	
総数	969	35	1,004	16,723	8,987	25,710	4,232	866	5,098	374	120	504	5,602
東山形支部	252	8	255	4,035	1,730	5,765	837	202	1,039	80	34	114	1,153
山形市	155	3	158	2,589	1,014	3,603	507	124	631	54	17	71	702
上山市	24	0	24	359	233	592	82	11	96	11	3	14	110
天童市	51	0	51	757	274	1,031	143	50	193	8	12	20	213
山辺町	16	0	16	205	141	346	58	7	65	6	1	7	72
中山町	6	0	6	125	68	193	47	7	54	1	1	2	56
若林山支部	72	1	73	1,344	582	1,926	277	53	330	9	6	15	345
寒河江市	28	0	28	578	213	791	115	24	139	4	1	5	144
河北町	19	0	19	383	199	582	83	17	100	4	2	6	106
西川町	5	0	5	75	39	114	14	6	20	1	1	2	22
朝日町	11	1	12	175	95	270	36	5	41	0	1	1	42
大江町	9	0	9	133	36	169	29	1	30	0	1	1	31
北村山支部	105	7	112	1,996	929	2,925	468	115	583	33	8	41	624
村山市	25	3	28	514	175	689	120	22	142	11	0	11	153
東根市	39	4	43	762	336	1,098	99	41	140	6	5	11	151
尾花沢市	31	0	31	545	332	877	194	41	235	11	2	13	248
大石田町	10	0	10	175	86	261	55	11	66	5	1	6	72
最上支部	85	2	87	1,514	1,162	2,676	484	182	666	27	19	46	712
新庄市	30	0	30	499	336	835	102	48	150	10	4	14	164
金山町	9	0	9	238	161	399	112	21	133	1	2	3	136
最上町	13	2	15	188	199	387	73	29	102	0	7	7	108
舟形町	4	0	4	140	122	262	54	56	110	7	3	11	121
真室川町	11	0	11	173	107	280	51	15	66	3	1	4	70
大蔵町	4	0	4	61	72	133	16	2	18	0	0	0	18
陸川村	9	0	9	124	90	214	46	8	54	2	0	2	56
戸沢村	5	0	5	91	75	166	36	3	39	4	1	5	44
東置賜支部	99	6	105	1,955	990	2,945	557	81	638	75	21	96	734
米沢市	48	3	51	865	408	1,273	219	38	257	36	10	46	303
南陽市	24	2	26	457	244	701	124	19	143	17	7	24	167
高森町	13	1	14	351	159	510	107	11	118	12	1	13	131
川西町	14	0	14	282	179	461	107	13	120	10	3	13	133
西置賜支部	78	4	82	1,318	789	2,107	433	44	479	36	10	46	525
長井市	25	1	26	484	224	708	122	11	133	15	5	20	153
小国町	11	0	11	169	99	268	69	14	83	6	1	7	90
白鷹町	27	3	30	486	338	824	196	17	213	12	2	14	227
飯豊町	15	0	15	179	128	307	48	2	50	3	2	5	55
庄内支部	278	12	290	4,561	2,805	7,366	1,174	189	1,363	114	32	146	1,509
鶴岡市	85	2	87	1,299	731	2,030	309	59	368	26	4	30	398
立川町	9	0	9	123	76	199	34	4	38	3	2	5	43
余目町	17	0	17	201	122	323	56	2	52	4	1	5	57
藤島町	9	0	9	172	112	284	34	6	40	2	0	2	42
羽黒町	11	1	12	192	133	325	44	7	51	3	2	5	56
朝日村	8	1	9	184	131	315	50	15	65	6	2	8	73
藤引町	16	1	17	242	136	378	64	12	76	12	5	17	93
三川町	10	2	12	131	77	208	56	8	64	4	1	5	69
温海町	8	0	8	129	118	247	25	2	27	12	3	15	42
酒田市	68	2	70	1,244	803	2,047	351	39	390	32	9	41	431
飯佐町	15	3	18	233	142	375	52	20	72	3	3	6	78
八幡町	9	0	9	172	85	257	26	10	36	0	0	0	36
松山町	10	0	10	130	84	214	49	4	53	4	0	4	57
栗田町	3	0	3	109	55	164	30	1	31	3	0	3	34

平成11年度 山形県スポーツ少年団事業計画

	事業名	期 日	会 場
種目別交流大会関係	●県少年少女スポーツ交流大会	9月23日(木)・10月3日(月)	県総合運動公園他
	●第5回全国スポーツ少年団SHIPS交流大会 ●全国スポーツ少年団競技別交流大会 ・サッカー(第23回) ・ホッケー(第21回) ・軟式野球(第21回) ・卓球(第22回) ・剣道(第22回)	8月4日(水)～8月6日(金) 8月2日(月)～8月7日(土) 7月21日(水)～7月23日(金) 8月14日(土)～8月17日(火) 3月26日(日)～3月28日(火) 3月28日(火)～3月30日(木)	仙台市「宮城野原陸上競技場」 東京読売サッカー場 熊本県小国町林間広場 神奈川県横浜 茨城県ひたちなか市総合運動公園 北海道立スポーツセンター
	●東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会 ・軟式野球 ・サッカー ・柔道 ・ミニバスケケットボール	7月24日(土) 7月24日(土)～7月26日(月) 11月27日(土)～11月28日(日) 2月11日(金)～2月13日(日)	山形県「サンスポーツランド河北」 秋田県「雄和町中央公園球技場」 宮城県「宮城県武道館」 秋田県「秋田市体育館」
研 究 内 係	●認定員養成講習会(8コース開催) ・西村山会場 ・庄内(田川)会場 ・庄内(田川)会場 ・最上会場 ・北村山会場 ・西置賜会場 ・東南村山会場 ・東南置賜会場	7月10日(土)～7月11日(日) 8月28日(土)～8月29日(日) 11月6日(土)～11月7日(日) 11月13日(土)～11月14日(日) 11月27日(土)～11月28日(日) 11月27日(土)～11月28日(日) 12月4日(土)～12月5日(日) 12月4日(土)～12月5日(日) 11月28日(日) 8月17日(火)～8月19日(木) 3月2日(木)～3月3日(金)	西川町開発センター 金峰少年自然の家 酒田市 最上合同庁舎・新庄市体育館 東根市民体育館 長井市置賜生涯学習プラザ 山形市江南公民館 南陽市民体育館 長井市置賜生涯学習プラザ 西置賜支部「飯豊少年自然の家」 庄内支部 庄内支部／北村山支部
	●シニアリーダー・スクール(前期) (後期) ●認定育成員研修会 ●認定育成員養成講習会(前期) (後期) ●少年スポーツ上級指導員養成講習会(共通科目) (専門科目) ●全国リーダー研究大会 ●指導者全国研究大会	8月11日(水)～8月14日(土) 3月26日(日)～3月28日(火) 9月25日(金)～9月26日(日) 9月24日(金)～9月26日(日) 11月12日(金)～11月14日(日) 通信講座 12月7日(火)～12月12日(日) 7月23日(金)～7月25日(日) 6月20日(日)	田沢湖スポーツセンター(秋田) 国立オリンピック記念青少年センター 田沢湖スポーツセンター(秋田) 道立砂川少年自然の家(北海道) 道立砂川少年自然の家(北海道) 国立オリンピック記念青少年センター(東京) 国立オリンピック記念青少年センター(東京) 東京都(東條会館)
	●第35回山形県スポーツ少年大会 ●地域交流促進事業	7月29日(木)～7月31日(土)	西村山支部・朝日少年自然の家 最上支部／北村山支部
交 流 内 係	●第30回東北ブロックスポーツ少年大会 ●第37回全国スポーツ少年大会 ●第26回日独スポーツ少年団同時交流(派遣) (受入) ●日独青少年指導者セミナー(受入) ●日独スポーツ少年団指導者交流(派遣) ●日中青少年スポーツ交流指導者交流(派遣) 団員交流(派遣)	7月29日(木)～8月1日(日) 7月28日(水)～8月1日(日) 7月20日(火)～8月12日(木) 5月4日(水)～8月9日(月) 5月23日(日)～6月11日(金) 9月下旬～10月上旬 10月中旬～10月下旬 8月上旬	西村山支部・朝日少年自然の家 国立信州高遠少年自然の家(長野県) ドイツ 庄内支部(遊佐町・平田町) 中国ブロック ドイツ 中国 中国(青島市・威海市)
	●県スポーツ少年団協議会 ●県スポーツ少年団本部員会 ●県スポーツ少年団専門委員会(企画プロジェクト6月下旬・11月下旬)(普及・1月中旬) ●県スポーツ少年団指導者協議会理事会 (県スポーツ少年団指導者協議会専門部総会/幹事会) ●県スポーツ少年団表彰、日本スポーツ少年団表彰伝達式 ●県スポーツ少年団リーダー会総会/運営委員会	5月13日(木) 5月25日(火)／2月15日(火) 5月7日(金)／11月5日(木) 3月2日(木) 3月下旬	県スポーツ会館 県スポーツ会館 県スポーツ会館 県スポーツ会館 庄内支部
	●東北6県体育関係者会議 ●全国指導者協議会 ●日本スポーツ少年団委員会総会 ●全国都道府県事務担当者会議 ●東北ブロック指導者研究協議会 ●北海道東北ブロック会議	5月中旬 6月18日(金)～6月19日(土) 6月9日(水)／3月15日(水) 6月9日(水)～6月10日(木) 11月16日(火)～11月17日(水) 2月中旬	宮城県 岸記念体育会館(東京) 岸記念体育会館(東京) 岸記念体育会館(東京) ガーデンパレス(宮城県) 宮城県

スポーツ安全保険(傷害保険・賠償責任保険・共済見舞金)

スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動等に最適な保険です。

※5人以上のグループで御加入ください。

区 分	掛 金	傷 害 保 険 (保険金額)				賠償責任保険	共済見舞金
		死 亡	後遺障害	入 院	通 院		
子供のスポーツ活動等成人の文化活動、ボランティア活動、地域活動	450円	2,000万円	最高 3,000万円	いじらにつき 4,000円	いじらにつき 1,500円	(補償限度額) 身体賠償 1人 1億円 1事故 5億円 (免責1,000円) 財産賠償 500万円 (免責1,000円)	突然死および日射病・熱射病による死亡
老人のスポーツ活動	800円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		
成人のスポーツ活動	1,400円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円		
山岳登山等	9,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		140万円

◆対象となる事故 ○グループ活動中の事故 ○往復途中の事故 ◆保険期間 平成11年4月1日から翌年3月31日まで(申込受付は3月から)